

日本史A, 日本史B

第1 高等学校教科担当教員の意見・評価

日本史A

1 前 文

4年目の共通テストとなる日本史Aの受験者数は2,452人、平均点は42.04点であった。

全科目共通の問題作成方針に加えて、日本史の問題作成方針には、「事象に関する深い理解に基づいて、例えば、教科書等で扱われていない初見の資料であっても、そこから得られる情報と授業で学んだ知識を関連付ける問題、仮説を立て、資料に基づいて根拠を示したり、検証したりする問題や、歴史の展開を考察したり、時代や地域を超えて特定のテーマについて考察したりする問題などを含めて検討する」と示されている。

なお、評価に当たっては、14ページに記載の8つの観点により、総合的に検討を行った。

2 内 容・範 囲

第1問 近現代の娯楽に関して調べている高校生と祖父の会話文を題材にして、明治時代初期から1970年代までの出題がなされた。政治史、社会史、経済史、文化史に関する小問を中心に構成され、史料を用いた設問もみられた。

問1 明治時代の政策に対する民衆の反応に関して正文を選択する問題。地租改正や松方財政に関する基本的な知識・理解が求められた。

問2 明治初期の北海道開拓に関する史料を読み取り、二文の正誤の組合せを判断する問題。史料を最初から最後まで丁寧に読み解くことが求められた。

問3 会話文の空欄に適する語句の組合せを選択する問題。坪内逍遙と二葉亭四迷に関する基本的な知識・理解が求められた。正答率が約72.3%と最も高い問題であった。

問4 日中戦争期の史料及び思想や文化に関して正文の組合せを判断する問題。史料は読解に難を要するものではないが、『麦と兵隊』の作者は火野葦平であることと矢内原事件について正しく理解しておかなければ判断できない。

問5 戦時中のニュースに関する史料の年代整序問題で、当時のマスメディアの情報から国内外の状況を判断することが求められた。Ⅲについてはフェイクニュースである点が非常に興味深い。沖縄戦が戦争末期に行われたことを理解していれば十分正答を導き出せる。

問6 戦後の社会状況の変化が娯楽に与えた影響に関して正文を選択する問題。「古川ロッパの日記」がリード文Bによると「1934年から1960年まで」であることから判断できる。

問7 メモの空欄に適する語句の組合せを選択する問題。戦中の食糧事情や戦後の農業政策に関する正しい知識・理解が求められた。

第2問 日本史探究部に所属する高校生の発表原稿を基に、幕末から明治時代までの出題がなされた。政治史、社会史、経済史、文化史に関する小問を中心に構成され、グラフや史料を用いた設問もみられた。

問1 発表原稿の空欄に適する語句の組合せを選択する問題。修好通商条約の内容に関する基本的な知識・理解だけでなく、文明開化の中で起こった人々の生活の洋風化に対する興味・関心も求められる問いであった。

問2 幕末における輸入総額と主な輸入品を示した二つのグラフを読み取り、二文の正誤の組合せを判断する問題。Xについてはグラフの変化を読み解くことが求められたが、Yについては欧米諸国が関税率の引き上げを要求する矛盾を理解していれば容易に判断できる。

問3 国立銀行条例に関する史料を参考にしながら、明治初期の国立銀行に関して正文を選択する問題。当時の金融制度に関する知識・理解だけでなく、史料の丁寧な読み取りが求められた。

問4 正文の組合せを判断する問題。明治時代の文化や思想、社会制度に関する正しい知識・理解が求められた。

第3問 授業の課題に取り組む高校生が作成したレポートを基に、明治時代から1940年代までの出題がなされた。政治史、文化史、教育史に関する小問を中心に構成され、表や史料を用いた設問もみられた。

問1 レポートの空欄に適する語句の組合せを選択する問題。近代の文化や産業に関する基本的な知識・理解が求められた。

問2 学校種別の校数の推移を示した表に関して正文を選択する問題。表の読み取りと教育制度の変遷に関する正しい知識・理解が求められた。レポートで触れられている「大正期の高等女学校の増設と生徒数の急増」に惑わされないようにしたい。

問3 明治時代以降の教育に関して正文を選択する問題。それぞれの時期の社会状況に関する知識・理解を踏まえ、正しく判断する力が求められた。

問4 学制に関する史料に関して二文の正誤の組合せを判断する問題。史料の正しい読み取りと、明治時代の教育理念を正しく理解していることが求められた。史料は読解にやや難を要するもので、冷静な思考力・判断力が求められる良問であった。

問5 1900年の文官任用令改正に関する史料を読み、正文の組合せを判断する問題。史料の正しい読み取りと、当時の政治に関する基本的な知識・理解が求められた。

問6 明治時代以降の学問に関する文の年代整序問題。基本的な知識・理解が求められるが、正答率が30%を切る問題であった。Ⅱの時期を正しく判断できない受験者が少なくなかったと思われる。

問7 近現代の教育と社会に関して誤文を選択する問題。明治時代から戦後期までの教育を取り巻く状況に関する正しい知識・理解が求められた。

第4問 発表準備を進めている高校生が作成したプリントを基に、大正時代から1970年代までの出題がなされた。外交史に関する小問を中心に構成され、史料を用いた設問もみられた。

問1 日本が締結した国際条約に関する三つの史料を読み取り、二つの説明の組合せを判断する問題。史料の内容から条約を判断し、解答する必要があった。日英同盟やワシントン海軍軍縮条約に関する正しい知識・理解が求められた。

問2 1928年の不戦条約締結時の内閣に関して正文を選択する問題で、正答率が約23.4%という難問であった。幣原喜重郎の協調外交に惑わされないよう注意したい。

問3 昭和初期における日本の対中国外交に関する史料を読み取り、二文の正誤の組合せを判断する問題。史料を最初から最後まで丁寧に読み解くことが求められた。

問4 日本の外交に関して正文の組合せを判断する問題。1930年代から1940年代までの日本の外交に関する正しい知識・理解が求められた。

問5 占領期の社会と文化に関して誤文を選択する問題。占領政策や占領期の風潮に関する正しい知識・理解が求められた。

問6 戦後の日米間の条約・協定に関する文の年代整序問題。正答率は約27.8%で、Ⅱ「MS

A協定」とⅢ「日米相互協力及び安全保障条約」の違いを正確に理解できているかがポイントであった。日米関係に関する正しい知識・理解が求められた。

問7 メモの空欄に適する語句の組合せを選択する問題。対日講和会議以後の日本の外交に関する基本的な知識・理解が求められた。

第5問 日本経済について調査している高校生が作成したメモを基に、大正時代から1980年代までの出題がなされた。経済史に関する小問を中心に構成され、史料や表、グラフを用いた設問もみられた。

問1 大正時代の工業化に関して正文を選択する問題。国内外の経済・社会の状況に関する正確な理解が求められたが、正答率は全問中最も低い約21.3%の難問であった。

問2 震災手形の処理に関する史料を読み取り、語句と文の組合せを判断する問題。メモAを参考にしながら、史料を丁寧に読み解いた上で、思考力・判断力が求められる良問であった。

問3 メモの空欄に適する語句の組合せを選択する問題。戦後の日本経済に関する基本的な知識・理解が求められた。

問4 戦後の日本経済に関する文の年代整序問題。敗戦後の復興期から1960年代までの日本経済の特徴に関する正しい知識・理解が求められた。

問5 敗戦後の復興期から高度経済成長期までの日本経済に関する表と史料を読み取り、二文の正誤の組合せを判断する問題。史料は昭和31年（1956年）のものであることから、Yは誤りであることを判断できる。表と史料の丁寧な読み取りと戦後日本の経済成長に関する正しい知識・理解が求められた。

問6 産業構造の推移に関するグラフを読み、正文の組合せを判断する問題。グラフの正確な読み取りと昭和時代の経済に関する基本的な知識・理解が求められた。ただ、c「それぞれ初めて下回ったのは、1950～70年」という表現の意味を冷静に捉えることに注意すべきである。

問7 大正時代から戦後の高度経済成長期までの日本経済に関して誤文を選択する問題で、第5問を包括する形の問いである。近現代の日本経済の特徴に関する正しい知識・理解が求められた。

3 分量・程度

60分の試験時間に対して、昨年度と同様、大問が5題、小問が32問の問題数であり、第2問と第4問が日本史Bとの共通問題という配置も例年と変更がなかった。また、戦後史に関わる小問が9問出題される等幕末から現代まで偏りのない構成で、政治史、社会史、外交史、経済史、文化史等分野のバランスも図られていた。基本的事項の正確な理解や基礎的な力を問う問題が主体であり、分量・程度とも適切であったが、平均点は45.38点であった昨年度と比較して約3点下降した。

学習指導要領の趣旨を踏まえ、史資料の読解力や分析力、さらに思考力・判断力・表現力等を問う傾向が今年度も色濃く出ており、提示された史資料は選択肢となっているものを除くと3種16点（史料12点、表2点、グラフ2点）と、昨年度の3種20点（史料9点、表4点、写真7点）からやや減少したものの、昨年度にはなかったグラフや史料の年代整序問題1題が提示された。昨年度は見られた、視覚資料である写真や発言の正誤を問う問題が今年度はなかった一方、史料が9点から12点（選択肢となっているものを含めると13点）に増加した分、史料読解を不得手とする受験者は解答にやや苦労したであろう。

受験者にとって初見と思われる史資料を論理的に読み取り、考察する力が求められる点は、総じて例年通りであったといえる。また、ある事柄を他の事柄と関連付けながら、歴史的事実に関する

内容や背景，因果関係等，理解の質を問う工夫が見られた。例えば **19** で扱われた史料は「日英同盟」などの用語を，**24** で扱われた史料は「日米相互協力及び安全保障条約」などの用語をそれぞれダイレクトに記載しないことで，知識・理解の質や考察力を細やかに測るものであった。

4 表現・形式

問題文の表現については，史資料の提示を含めて明確であった。史資料に極端に難解なものはなく，必要な箇所に脚注が付されており，受験者が正確な判断ができるよう配慮されていた。

形式については，高校生の具体的な学習場面から展開される大問が中心である点は例年通りであったが，昨年度は会話が展開される大問が多く，劇の台本作成という学習以外の活動も設定され，さらに年表のような内容が提示される大問も見られたのに対して，今年度は調べ学習や発表に向けた原稿，メモ等を題材にした大問が多かった。

小問でみると，32問のうち，空欄に適する語句の組合せを選択する問題が6問，二つの説明や語句，文の組合せを判断する問題が2問，正文の組合せを判断する問題が5問，二文の正誤の組合せを判断する問題が5問，年代整序問題が4問，正文を選択する問題が7問，誤文を選択する問題が3問であった。

5 まとめ（総括的な評価）

今回で4年目となる共通テストは，思考力・判断力・表現力等を重視する学習指導要領の指針に合致するもので，受験者の基本的事項の正確な理解を適正に評価する問題であった。

各大問で提示された題材については，第1問は娯楽からみる人々の生活，第2問は洋服や銀行の始まり，第3問は教育と社会の関係，第4問は日本と国際社会の関係，第5問は日本経済がそれぞれテーマとして取り上げられた。

例年，一つの大問に政治史や社会史，文化史等の複数の分野から万遍なく小問が出題されることが多いが，今回は第4問が外交史，第5問が経済史にそれぞれ特化した問題構成となっており，単一の分野について追求する問題作成に，相当の工夫・吟味が重ねられていると思われる。第4問は，史資料と知識・理解を関連付け，思考・判断する要素がもう少しあればさらに良問になると考えるが，第5問のメモAは，高等学校教科担当教員にとっても，1920年代の不況を震災手形の面から考える教材として興味深く，今後の授業で活用したいと思うものであった。

全体的に，これまでの共通テストと同様，機械的・短絡的な思考や知識で解答できる問題ではなく，史料や表，グラフなどの史資料で示される歴史的事実を，受験者のこれまでの学習で得た正確な知識と関連付けて判断させる問題にしたいという，問題作成者の意図が十分に伝わってきた。史資料の豊富さは例年通りであり，大問全ての情報を読み取り，総合的に思考・判断することが求められる問いは，今年度も **6** で出題された。ただ，地図を活用して解答する小問は，令和4年度追・再試験以来2年連続で出題されず，史料をはじめ文字資料の多さが際立っている感が否めなかった。今後は，史資料の多様性，バランスについても検討していただきたい。

次年度には，新教育課程で学んだ生徒が受験者となる最初の共通テストを迎える。新設される「歴史総合，日本史探究」では，範囲が従来の「日本史A」「日本史B」から大きく変更となるが，史資料の読み取りや，正確な知識に裏付けされた論理的な思考力・判断力・表現力等が引き続き重要となることは疑いない。高等学校の現場では，限られた時間の中で指導と評価の一体化を図りつつ，このような資質・能力を育成する指導が必要であろう。

最後に，共通テスト問題作成に関係した方々の多大なご尽力に，心から敬意を表します。

日 本 史 B

1 前 文

4年目の共通テストとなる。日本史Bの受験者数は131,309人、平均点は56.27点であった。

全科目共通の問題作成方針に加えて、日本史の問題作成方針には、「事象に関する深い理解に基づいて、例えば、教科書等で扱われていない初見の資料であっても、そこから得られる情報と授業で学んだ知識を関連付ける問題、仮説を立て、資料に基づいて根拠を示したり、検証したりする問題や、歴史の展開を考察したり、時代や地域を超えて特定のテーマについて考察したりする問題などを含めて検討する」と示されている。

なお、評価に当たっては、14ページに記載の8つの観点により、総合的に検討を行った。

2 内 容・範 囲

第1問 印刷物の歴史について述べた文を基に、古代から近代に至る政治・外交史、経済史及び文化史について問う問題。

問1 恵美押勝（藤原仲麻呂）の乱が起きた時期を、出来事を年代順に並べた表の中から選択する問題。奈良時代の出来事の歴史的展開に関わる理解が求められる。

問2 中世から近世にかけての日本と朝鮮との交流について述べた三文を読み、古いものから年代順に配列する問題。室町期の日朝貿易の推移と豊臣秀吉の朝鮮出兵の影響に関わる理解が求められる。

問3 中世と近世における紙の流通に関する史料を読み、正誤の組合せを判断する問題。楽市令に関する理解及び史料を正確に読解する技能が求められる。

問4 近世の活字印刷の技術に関する説明文中の空欄に適する語句の組合せを選択する問題。17世紀前半に伝来した活字印刷の技術及び『吾妻鏡』についての知識が求められる。

問5 江戸後期に学問や文芸の分野で活躍した人物について述べた二文を読み、適する語句の組合せを選択する問題。江戸後期の文化史についての知識が求められる。

問6 明治時代の歴史書編纂事業に関する史料を読み、二つの正文の組合せを選択する問題。史料を正確に読解する技能と明治時代の出版物についての知識が求められる。

第2問 日本古代の食物に関する高校生二人の会話を基に、弥生時代から平安中期の政治・社会史及び文化史について問う問題。

問1 甕と甑の名称と用途を説明した二文を読み、正誤の組合せを選択する問題。甕と甑の写真と補足説明から読み取った情報と説明文の内容とを統合する思考力・判断力・表現力等が求められる。

問2 8世紀における調の塩の納入に関する史料及び表を基に、二つの正文の組合せを選択する問題。史料と表から読み取った情報を統合する思考力・判断力・表現力等及び律令体制下の租税と行政区画についての知識が求められる。

問3 古代の女性の服装について述べた三文を読み、古いものから年代順に配列する問題。飛鳥期から平安中期の文化史についての知識が求められる。

問4 蘇（生蘇）について述べた四文を読み、誤文を選択する問題。会話文及び史料を正確に読解する技能とともに、読解した情報を統合する思考力・判断力・表現力等が求められる。

問5 古代の食物に関係する資料をまとめた表中の空欄に入る内容の組合せを選択する問題。表中の情報を読み取る技能とともに、歴史資料の特質、平安時代の文化史及び外交史に関す

る正確な理解が求められる。

第3問 中世社会の特色について調べた高校生二人の会話を基に、鎌倉期から戦国期の政治・社会史及び文化史を問う問題。

問1 中世の朝廷について述べた三文を読み、古いものから年代順に配列する問題。鎌倉期から室町期にかけての朝廷と幕府との関係性に関する理解及び知識が求められる。

問2 永仁の徳政令及び名主・百姓たちが徳政令の適用を荘園領主に求めた申状に関する史料を読み、二つの正文の組合せを選択する問題。史料を正確に読解する技能とともに、史料から読み取った情報と会話文の内容とを統合する思考力・判断力・表現力等が求められる。

問3 南北朝時代に学問・文芸の分野で活躍した人物について述べた二文を読み、適する語句の組合せを選択する問題。南北朝文化についての知識が求められる。

問4 分国法に関する三つの史料と、その内容について述べた二文との組合せを選択する問題。史料を読解する技能と分国法の内容に関する理解が求められる。

問5 中世において実力を行使して問題を解決しようとする事例について述べた四文を読み、正文を選択する問題。中世社会の特色である自力救済という概念的知識を事例に演繹させる思考力・判断力・表現力等が求められる、中世の全体的な理解を問う良問である。

第4問 近世の輸出入品と社会・経済に関する高校生二人の会話を基に、江戸期の政治・社会史、外交史について問う問題。

問1 会話文中の空欄に適する内容の組合せを選択する問題。江戸期の手工業・鉱山業に関する理解及び知識が求められる。

問2 江戸幕府がポルトガル船の来航を禁止するに至るまでに起きた出来事について述べた三文を読み、古いものから年代順に配列する問題。江戸幕府の鎖国政策に関わる理解及び知識が求められる。

問3 俵物の輸出に関して述べた二文を読み、二つの正誤の組合せを選択する問題。長崎貿易に関する理解及び知識が求められる。

問4 江戸後期の風俗を記した史料にみられる砂糖の生産・流通について述べた四文を読み、正文を選択する問題。史料読解の技能とともに、江戸期の専売制に関わる理解と知識が求められる。

問5 江戸後期の機織り屋に関する史料と、当時の社会や政治について述べた四文を読み、二つの正文の組合せを選択する問題。史料読解の技能と、同時代の政治・社会史に関わる理解及び知識が求められる。

第5問 「明治はじめて物語」をテーマに高校生が作成した発表原稿を基に、幕末から明治期の経済・外交史及び社会・文化史について問う問題。

問1 洋服の始まりに関する発表原稿中の空欄に適する語句の組合せを選択する問題。開国後の貿易と文明開化の風潮についての理解及び知識が求められる。

問2 1860年代の日本の輸入総額と主な輸入品の割合を示すグラフについて述べた二文を読み、正誤の組合せを判断する問題。グラフから読み取った情報と幕末期の外交についての知識とを統合する思考力・判断力・表現力等が求められる。

問3 国立銀行条例に関する史料を参考にしつつ、国立銀行について述べた四文を読み、正文を選択する問題。資料読解の技能と、明治期の貨幣制度に関する理解が求められる。

問4 明治期の社会・文化について述べた四文を読み、二つの正文の組合せを選択する問題。明治期の文化史及び社会史についての知識が求められる。

第6問 二度の世界大戦後の日本と国際社会との関係をテーマに高校生が作成したプリントを基

に、大正～昭和時代の政治史及び外交史について問う問題。

問1 ワシントン会議で調印・廃棄された条約に関する三つの史料と、史料について述べた説明文との組合せを選択する問題。ワシントン会議に関する理解、史料読解の技能及び外交についての複数の知識を統合する思考力・判断力・表現力等が求められる良問である。

問2 田中義一内閣について述べた四文を読み、正文を選択する問題。大正期から昭和初期にかけて組閣された内閣についての知識が求められる。

問3 満州事変の処理に関する史料について述べた二文を読み、正誤の組合せを選択する問題。史料を正確に読解する技能が求められる。

問4 第二次世界大戦前の日本の外交に関する四文の中から、二つの正文の組合せを選択する問題。日中戦争から太平洋戦争開戦までの日本の外交に関する理解及び知識が求められる。

問5 占領期における日本の社会や文化に関する四文を読み、誤文を判断する問題。占領期の政治・社会史及び文化史に関する理解及び知識が求められる。

問6 敗戦後の日米間で結んだ条約・協定に関して述べた三文を読み、古いものから年代順に配列する問題。敗戦後の日米間の外交に関する理解及び歴史的転換についての思考力・判断力・表現力等が求められる。

問7 対日講和会議以後の日本との外交関係に関するメモ中の空欄に適する語句の組合せを選択する問題。講和会議と戦後の日中間の外交についての知識が求められる。

3 分量・程度

(1) 分量

ページ数は、昨年度の共通テストからの大きな変化は見られず、計32ページであった。問題数は大問6題、小問32問で、うち第5問と第6問の計11問(34点)が「日本史A」との共通問題である点も、昨年度を踏襲した構成となっている。60分の試験時間を考慮すると、大問・小問の数、問題に関わる情報量ともにおおむね適正であったと言える。

昨年度は地図や統計資料、模式図、新聞の見出し一覧など多様な資料が登場したが、本年度は文字史料が多く示されており、昨年度より資料の多様性は見られなかった。政治史、社会・経済史、外交史、文化史といった諸分野が横断的にバランスよく出題されていた。

(2) 程度

問題の程度については、学習指導要領が求める資質・能力を逸脱してはならず、知識・理解の質や思考力・判断力・表現力等を問う問題がバランスよく配置され、総じて適正であった。昨年度に引き続き初見の資料が多数引用されたが、設問の趣旨は、歴史の考察に有効な諸資料を正確に読み取り、知識と結び付けて活用する点にあり、歴史的事象の意味や意義に関する深い理解があれば、決して難易度の高いものではない。昨年度と同様に文字史料については、脚注を参考にすれば、正確に判断できるようになっているとともに、難解なものについては現代語訳がされているという配慮がみられた。

4 表現・形式

(1) 表現

全体を通して、語彙や表現に難解さを感じた箇所は見当たらず、リード文、設問文ともに簡潔にまとめられていた。

ただ、7の飴は日常的に使用する語句ではなく、教科書によっては本文中に記載していないものもある。したがって初見の受験者にとっては判断が難しかったと推測する。ふりがなを付け

る配慮があっても良かったと考える。

(2) 形式

小問における設問の形式としては、昨年度と同様、二つ以上の語句あるいは文の正誤の組合せを選択するものが多かった。歴史的事象を記した文を年代順に配列する設問は、昨年度より1問減った。事象間の時間的間隔が狭い形式は、歴史的事象の推移や事象相互のつながりについての正確な理解や思考力を求めるものであり、用語を単に暗記する学習からの脱却を示唆しており、歓迎したい。また、共通テストでは初の出来事の時期を表中に位置付ける設問（**1**）が出題された。

別記のとおり本年度は、昨年度よりも文字史料を用いた出題が多かった。思考力・判断力・表現力等のみならず、史料読解の技能及び史料に関する知識の有無が求められたと思う。文字史料は歴史学において重要なものではあるが、多面的・多角的な考察力の育成を考慮すれば、多様な資料を用いた出題上の工夫を今後期待したい。

5 ま と め（総括的な評価）

本年度の問題を総括すれば、出題内容については、基本的事項の正確な理解や知識、資料を基にした思考力・考察力・表現力等を問うものであり、受験者の培ってきた資質・能力を評価するのにふさわしいものだった。文字史料を正確に読み取り、その内容を客観的に考察して解答する設問（**13**・**15**など）は、学習した歴史的事象を多角的に捉えながら史料解釈をするという歴史学の分析手法に基づくものであり、授業における文字史料の活用方法の参考として、授業改善の視点となりうる。出題範囲についても、時代・分野・領域の全てにおいて極端に大きな偏りは感じられず、おおむね適切であったと言える。ただ、現代史の出題内容が昨年度と同様に外交史の分野であり、出題される設問の年代が1970年代までであった。戦後政治の展開や日本経済の発展などを扱った出題も期待したい。また、沖縄の返還を題材とする設問（**31**）があったが、昨年度も近似した設問があったことを指摘しておく。

最後に、共通テストにおいて求める知識・理解及び思考力・判断力・表現力等に対する若干の所見を記して、本稿を締めくくりたい。**7**の弥生土器の名称と用途に関する設問だが、写真と説明文の情報を基に考察し、正解を導く設問だと思われる。「煮る」「蒸す」という用途と土器の構造とを結び付けて考察することが、歴史的な見方や考え方を働かせることになるのか、一般的な常識に基づく考察で判断できるのではないのかということについて、歴史的思考力を問う設問としての妥当性を今後検討していただければと思う。

次に文字史料を多く使用した出題である。別記の通り、文字史料を題材とすること自体は歓迎するが、その分量については検討をお願いしたい。共通テストへの移行以来、多様な資料に基づく出題が見られた。そのことを踏まえて学校現場の授業においても様々な資料の教材化が開発されている。大学入試共通テストが大学入学試験のみならず、高等学校の歴史教育にも大きな影響を与えるという性格を鑑み、作問上の制限等はあるのだろうが、多様な資料に基づく出題を期待する。

昨年度と同様に本年度の試験も、歴史の学習が知識の習得のみならず、歴史的事象に関する資料読解の技能や思考力・判断力・表現力等の育成を目指すものであるということを示唆している。出題者及び作成者の方々の多大な尽力に、心から敬意を表します。